

# 令和7年度 厚生環境常任委員会 行政視察 復命書

## 1. 視察日程等

- (1) 日 程 令和7年10月28日(火)～30日(木)
- (2) 視 察 先 筑紫野市役所(福岡県筑紫野市)  
モッカランド(福岡県大川市)  
福岡市役所(福岡県福岡市)
- (3) 視察目的 地域コミュニティについて  
子育て支援総合施設「モッカランド」について  
ふくレジについて  
こども未来基金について
- (4) 参 加 者 今野委員長、相沢副委員長、山崎委員、岩満委員、仲山委員、  
今井委員、落野委員

## 2. 視察結果

### (1) 筑紫野市役所

- ①日 時：令和7年10月28日(火) 15:00～16:30  
②対応者：筑紫野市市民生活部コミュニティ推進課  
③視察内容等：別紙1

### (2) モッカランド

- ①日 時：令和7年10月29日(水) 10:00～11:30  
②対応者：大川市子ども未来課、モッカランド  
③視察内容等：別紙2

### (3) 福岡県福岡市

- ①日 時：令和7年10月30日(木) 10:00～12:00  
②対応者：福岡市環境局循環型社会推進部収集管理課(ふくレジ)  
福岡市こども未来局こども政策部総務課(こども未来基金)  
③視察内容等：別紙3、別紙4

(別紙1)

## 1. 地域コミュニティについて

### (1) 事業背景等の説明

筑紫野市市民生活部コミュニティ推進課

- 人口10万6000人の規模の筑紫野市は交通の要所であり、近年も人口が微増している。また、高層ビルが建てられないなど、千歳市と似た事情を持っているまちである。7階建ての庁舎は令和1年に新築しており、庁舎前には防災時等に活用できる広場がある。
- このまちの地域コミュニティ構想は「地域住民が主体となり、地域課題の解決や地域の魅力を活かしたまちづくりが進められているコミュニティ」を目指し、平成21年に7つのコミュニティ運営協議会が設立された。
- 7つのコミュニティ運営協議会は、それぞれが独自のスローガンを掲げ、特色ある活動に取り組んでいる。
- 筑紫野市には区長(手当あり)制度が残っているまちである。コミュニティ運営協議会の役員は、主に自治会の役員から選出される。
- 各コミュニティセンターは、役所の機能を有する支所として、市職員を3名配置し住民票などの発行業務を担っており、地域コミュニティの推進や、住民が相談できる体制となっていた。
- コミュニティセンターに一人ずつ、コミュニティ運営協議会の活動を支援するための事務支援職員を配置している。
- それぞれのコミュニティ担当の市の職員(コミュニティ推進課)がおり、7つの協議会を5名の職員が担当として配置されている。

### (2) 主な質疑等

Q: コミュニティ運営協議会の役割は何ですか。

A: 自治体で取り組めなくなったこと(お祭りやスポーツ大会等のイベント)を主体となり実施すること等。

Q: コミュニティ運営協議会の課題はありますか。

A: 地域によるが、役員の成り手不足や高齢化は、どこの地域でも課題となっている。

Q: コミュニティ運営協議会の防災対策や生活支援の具体的な例は。

A: ライングループで情報共有をしたり、防災講座の実施をしたりしている地域がある。

Q: 各運営協議会の、運営資金を教えてください。

A: 助成金がメイン。町内会費のように、徴収していない。

Q: 御笠まちづくり協議会では、「御笠自治会バスの運行」という活動があるようだが、このバスの運行はどのようなものですか。

A: 路線バス形式でしており、運転手は地域のボランティアが担当している。

Q: コミュニティ協議会と町内会連合会との関係はどのようになっていますか。

A: 7個コミュニティ協議会の構成としては 各自治会の役員で構成され、区長制度をいまま活用していて町内会連合会は関連しないとのこと。この点は千歳市とは大きな相違がある。また、各コミュニティ協議会には、館長と2名の事務員がいる。

Q: 交付金5176万3千円の配分はどのようになっていますか。

A: 各コミュニティ協議会事務局の人件費が主でありその他で運営費として活用している。

Q: 自治会・町内会数の変遷や地縁団体登録状況は。

A: 市では自治会・町内会数は把握していない。あくまで行政区で87の地域があるが、その下部の自治会・町内会などの詳細は把握していない。また地縁団体登録をされている地域は

14団体である。

Q：まちづくり・子育て・防犯防災などの機能団体は、いくつありますか。

A：まちづくり団体が23団体、子育て関係団体が35団体、自主防災組織団体が86団体。

Q：市が推進条例を作り、パートナーシップ協定迄結んでいる。その相手方は、自治会・その集まりであるコミュニティ運営協議会であるが、一方に民間団体が加わっていることがユニークかなと思う。それら運営協議会の活動範囲・内容は。

A：環境の美化、青少年の育成、防災、防犯など。

Q：市は、人員の面ではどれだけ支援していますか。

A：職員6人である。

Q：なりて、役員不足については、どの町でも悩みだと思うが、御市での対策はどうか。

A：中高生のボランティアが活発になってきている。

### (3) 感想

#### ●今野委員長

筑紫野市では7つのコミュニティそれぞれの特色を活かした地域まちづくり計画を策定し、様々な事業に取り組んでいるが、その中の一つに自治会バスの運行があり、公共交通が無いということで自治会独自にバスを運行している。そのようなことも地域コミュニティの取り組みとして行なっていることに少々驚いたが、素晴らしい取り組みだと感じた。千歳市においては、現在、町内会や自治会が中心となって様々取り組んでいるところだが、地域コミュニティの取り組みは、高齢化が進んでいる中で大事な取り組みであると思うので、どのようにしたら千歳市でも取り組んでいけるのか、更に研鑽し提案していきたいと感じた。

#### ●相沢副委員長

地域活動に携わる人の高齢化、人材不足により、運営できなくなる自治会に代わり、大きな単位での取り組みをしようと始まったのがコミュニティ運営協議会、と認識した。この組織の活動拠点として整備されたコミュニティセンターの館長が、市の再任用の職員であったり、市のコミュニティ推進課職員がそれぞれのコミュニティの担当をしているなど、運営が立ち行くようにする工夫を感じた。実際の地域活動を行うのはあくまでその地域の住人であり、協議会の役員であり、それは主にコミュニティに所属する自治会から選ばれるということで、やはり役員の高齢化やなり手不足という課題は残っているようだった。しかし、千歳でも町内会の運営が立ち行かなくなるところも出てきているため、こういった取り組み（市の職員の登用）は、千歳市内の各町内会やコミュニティ運営協議会でも参考になると感じた。

#### ●山崎委員

まずは組織の違いに関心を持った。千歳市の町内会連合会に当たる組織がコミュニティ推進協議会に、千歳市各コミュニティ協議会がコミュニティ運営協議会に当たり、大まかに言うと推進協議会が市からの周知事項並びに提案等の案件を協議し、決定事項等を各運営協議会に周知すると言った組織運営にしていると伺ったが、町内会・自治体の役割は運営協議会が行うのか疑問を感じ、町内会・自治会は組織されているのか伺うと、自治会を組織している処も有るが基本運営協議会がその役割を担っていると感じたが、それで基本組織である各町内は運営が円滑運営出来るのか疑問に感じた。各運営協議会に市役所職員が一人ずつ配置され地域の防災・福祉・教育等についての地域課題に地域とともに活動しているのは今後の地域コミュニティ活動の参考にすべきものと感じた。

#### ●岩満委員

筑紫野市がこの7個のコミュニティ協議会の構成により 各地域の活性化を図っているのは理解しましたが千歳市が今の町内会連合会と各コミュニティ協議会との関係を解体して同じ要領でできるのかを思うとなかなか難しいと思料した。また筑紫野市も高齢による役員

の成りて不足は共通の課題であり、我が千歳市も同様であり、これを含めて今後、どのように地域の活性化を進めていくのか私も引き続き検討していこうと思います。今回の筑紫野市の地域コミュニティの推進要領は参考になり大変勉強になりました。その他として今回の視察時に議場を視察させて頂き、筑紫野市においても議場のモニターの設置があり、質問時の有効なアイテムとして活用でき、また傍聴席にも大きなモニターがあり、耳の不自由な方にも傍聴できるように字幕がでるシステムになっており、千歳市も次年度において議場におけるモニターの設置を検討すべきと強く思いました。

●仲山委員

どこのまちにおいても課題が指摘されてきている地域コミュニティの視察であったが、高齢化・担い手不足の課題があげられていた。各地域での活動が難しくなっている現状認識は、当市と同様でありました。しかし、コミュニティセンターが支所的な役割を果たしており、支え手の不足、担い手不足を広域的な運営により補完して推進されていることが理解できました。また、千歳市には当てはまらないが、行政区割で推進され役員が有償で活動されていることが大きな違いであったと思います。さらに各コミュニティセンターに市職員を配置し地域コミュニティを支えていることの必要性を感じました。今後、ますます高齢化社会へ進展する中で、筑紫野市のような広域的な支援を含めた取組が必要性を増すことが想定され、千歳のまちの地域コミュニティ推進にあたって参考にしていきたい。

●今井委員

地域コミュニティ推進協議会の活動が、地域住民が主体となって自分たちの住む地域をよくするため筑紫野市全体に根付いている事で、互いに支え合う精神が素晴らしいと思いました。各地で行われている高齢者の見守り活動などを通じて住民同士のつながりを感じました。日頃からの顔の見える関係づくりが、地域の安心、安全なまちづくりに繋がると感じました。

●落野委員

筑紫野市は、千歳市と人口の規模が同じだが、市になったのは千歳市よりもおそいが、現在の人口は、千歳市よりも多い。福岡市や久留米市への交通アクセスが良いというメリットはある。千歳市の市民協働事業と類似するところもあると思うが、行政がより積極的にかかわっているという気がする。高齢者家庭への生活支援で、草取りや水やりなどが挙げられていた。木目細かな支援だと思う。

(別紙2)

## 2. 子育て支援総合施設「モッカランド」について

### (1) 事業背景等の説明

大川市子ども未来課

- ・現在人口は3万人ほどの大川市は、福岡県内のまちであるが最寄りの空港は佐賀空港である。モッカランドは大川市の建設であるが、市外からも多くの来館者を迎えている。
- ・モッカランドは、こども家庭センター（母子保健機能、児童福祉機能）、児童の発達支援（発達支援事業）、地域子育て支援拠点としての機能を併せ持つ施設であり、市役所に近い「大川中央公園」内に整備された。図書館も近い。
- ・施設内には、カフェが併設され、だれでも利用することができる。運営は、「木の香園」という、就労支援施設（A型）である。
- ・ファミリーサポートセンターも施設内にあり、こちらは社協が業務を実施している。
- ・モッカランドの館長は、市の子ども未来課課長。
- ・定休日は火曜日。土日は特に市外からの利用者が多い。市外在住者は、モッカルームで遊ぶことができる。
- ・令和5年からは、「こども家庭センター」が設置された。母子保健部門と児童福祉部門が連携し、施設内で保育、教育、妊産婦支援等において連携し取り組んでいる。

### (2) 主な質疑等

Q：モッカランドのネーミングの由来は何ですか。

A：もともとあった、市の大川市イメージキャラクター「モッカくん」から。

Q：施設の利用状況は。

A：令和6年度の利用者は5万2000人ほど。一日平均167人。来館者の割合の中で、大川市民は42パーセント。

Q：勤務員の構成は。

A：正規職員は9名、会計年度職員は17人。社会福祉士、言語聴覚士、家庭児童相談員（児相OB）、保育士、保健師等がいる。

Q：子育て世帯からの評価は。

A：天候に左右されずに遊べる場所ということで、評判は上々。

Q：大川市の人口と、家具生産の推移を教えてください。

A：人口が最盛期で5万3000人ほどだが、現在では約3万人。家具生産額でも最盛期の1割まで減少している状況。

Q：施設使用料は無料か。また、市外の方の利用可能範囲は。

A：モッカルーム利用は無料。利用時は、市内在住者は事前予約ができるが、市外の方は当日会場時の申込みになるので待ち時間が発生する。また、大川市の事業は利用出来ない。

Q：今年4月から入室の手続きが変更となり事前登録制になった背景は何ですか。

A：これまではLINEを用いて登録をしていたが、従前のサービス事業の終了により、4月からQRコードを利用する手続きに変更した。

Q：6大木工都市の一つとして栄えてきた大川市だが、材料となる木材は地元にあるのですか。

A：全盛期から見ると、輸入材も多いが、明治以前から、川の上流から下ってくる木材を使ってきたものである。

### (3) 感想

#### ●今野委員長

大川市は家具生産量日本一であり「家具のまち」「木工のまち」として有名であるため、このモッカランドは木造平屋建てということで内装・外装ともたくさんの木材が使用されており、とても温かみのある建物だった。また、カフェなどに置かれているソファやイスなどにも大変有名な大川家具なども取入れており、とても座りやすく居心地の良い空間だった。モッカランドは市内に分散していた子育て施設が老朽化したため集約し新設され、より支援という部分に重点をおいた子ども家庭センターをはじめとする様々な事業を展開している。専門的な資格をもつ職員が充実しており、近隣の大学とも連携しているとのことで、様々な相談に対応でき、とても素晴らしいと感じた。また、子育てする中で悩みがあってもわざわざ市役所まで相談に行くというのは抵抗があると思うが、健診やお子さんを遊ばせに行っただけに相談ができるというのは、大変気軽に利用者にとってはとても有り難い場所であると感じた。千歳市においても現在は子育て支援センター等分散されているので、このような施設があるとより子育て世帯に寄り添った事業が行えると思うので、市の子育て施策に活かしていけるよう更に研鑽し、提案して参りたい。

#### ●相沢副委員長

明るく開放的な作りで、デッキでも過ごせる快適な施設である。近隣住民は、この施設の開館を歓迎しているようだった。

大川市は、家具作りで発展を遂げた街であり、かつての人口は5万人を超えていた。現在は最盛期の出荷額の1割程度となり、人口は3万人ほどとなっている。産業の浮き沈みは、時代背景や国の思惑に左右されるもので、基礎自治体にはどうしようもない部分も大きい。このモッカランドは住民に寄り添う施設であると考える。

この施設がある大川公園の中でグラウンドゴルフを楽しんだ高齢者が、モッカランド内のカフェでランチをすとも聞いた。老若男女が集う場所としての役割も果たしており、大いに評価できる施設である。

#### ●山崎委員

平成3年に新設された、保健センター・子育て支援センター・市役所子供未来課・ファミリーサポートセンター・遊戯施設が集約されワンストップで支援できる子育て支援総合施設を研修させて頂き、素晴らしい施設だと感じた。当市にも似た保健福祉センターがありますが、ここまで集約された施設となっておらず今後の保健福祉センターの有り方の参考になった。

#### ●岩満委員

今回九州出身の私ではありますが、家具生産で有名な大川市を訪れる機会を得て、人口約3万人のまちの子育てに力を入れておられる状況を視察でき素晴らしい取り組みであると思います。まず千歳市にはこのような規模の四季を通じて子供たちが遊べて学べる施設がなく特に冬の子供の遊び場がなく隣の恵庭市の施設を利用している現状があり、このモッカランドを参考に当時の建設予算8億で完成したと聞き、当市も子育ての相談を含めた福祉行政においても今後検討の余地があると強く思料いたしました。

#### ●仲山委員

これまで多くの子育て世帯の方から声を頂いていた屋内遊戯施設を視察し、大変にたくさんのことを学ばせていただきました。この施設の特徴は、市内に点在する施設を集約し、妊娠から子育て期までワンストップで支援できる施設となっており、支援を必要とする方にとって利便性向上が図られた施設と感じました。

特にインクルーシブな施設整備がされており、これから求められる先進的な施設であり勉強になりました。また、そのための専門職もしっかり配置され相談体制の充実度を感じまし

た。市内には、国際医療福祉大学なども隣接しており人材育成にも恵まれていると受け止めました。

このような施設は、どこのまちにも必要な施設であると受け止めるとともに千歳市の子育て環境の充実のために良い視察の機会となりました。

●今井委員

「モッカルンド」は、地場産業である大川家具の技術を生かした木製の遊具や家具を使っていて温かみのある空間が印象的でした。

施設内のモッカルームに子供たちが興味を持ちそうな木製のおもちゃや遊具がたくさんあり子供たちがのびのびと遊べる空間が良かったです。

施設内にあるモッカフェでランチやお茶ができて、コワーキングスペースがあって、小中高生も利用ができるのも魅力的でした。

施設のまわりには、図書館やゲートボールなどがあり、老若男女問わないととてもいい施設で無料なのにサービスがすごいのに驚きました。

●落野委員

来園する時、長い川沿いの道を歩いた。ゆっくりと時が流れ、牧歌的な気分にもなった。高齢者が数人で楽しそうにグラウンドゴルフをしていた。

挨拶してくださった市議会の議長は「長く後ろから、町のことを見守ってきた」という枯淡の息を感じた。人口は、5万から3万へ。昨年の市長選で、道の駅構想が撤回された。鉄道もなく、交通アクセスは悪い。子供の成長と福祉、優しい木の街にエールを送りたい。

(別紙3)

### 3. ふくレジについて

#### (1) 事業背景等の説明

福岡市環境局循環型社会推進部収集管理課

- ・ふくレジは、コンビニやスーパー、ドラッグストアで買えるレジ袋。福岡市内で有料ごみ袋としても使用できる。
- ・福岡市の排出されるレジ袋の量を組成調査に基づき算出したところ、総量の1%がレジ袋であり、年間2,600トン捨てられている状況。市民一人当たり年間160枚程度になる。
- ・導入のきっかけは、「小さいサイズのごみ袋がほしい」「ばら売りをしてほしい」という市民の声。当時、福岡市の有料ごみ袋は、10枚ずつしか販売していなかった。
- ・導入にあたり、他都市の先行事例で課題を洗い出した。その結果、一番の課題は「販売店の負担増」。これに対応することで、長続きする施策とした。
- ・販売店の負担を鑑み、「販売オペレーションが楽」「販売参加も発注フローも簡単」「レジ袋のサイズを考慮」した結果、販売店も導入に参入しやすくなっている。
- ・市民からの声「ふくレジ、絵柄がおしゃれ」「福岡市を誇らしく思う」「マイバッグを忘れたときに買って便利」との声がSNSに寄せられており、市民から愛される施策となっている。
- ・デザインは、福岡市の既存事業「Fukuoka Art Next」を活用し、福岡で活躍するアーティスト、イフクカズヒコ氏がデザインしている。

#### (2) 主な質疑等

Q：プラごみ削減へ効果のある事業と思う。昨年11月頃からの取組であるが、現時点での事業評価は。

A：環境への効果として、プラスチックごみ減量約16.5トン（R5年度比）、CO2削減量約54.4トン（R4年度比）の効果があつた。

Q：ふくレジの導入前後で、有料ごみ袋のばら売りをしている店舗はありますか。

A：導入前、有料ごみ袋は10枚単位での販売のみ。導入後も、ばら売りをしているのはふくレジのみ。

Q：ふくレジを導入した当時の問題点は何ですか。

A：宣伝のためのポップが隠れてしまうという参入店側の問題点や、大手スーパーが参入してくれない、有料ごみ袋の購入がキャッシュレスに対応していないなど。

Q：デザインが、公募ではなく地元のイラストレーターに依頼した、とありましたが福岡の有名な博多ドンタクなどのデザインやゆるキャラを使用しなかった理由は何ですか。

A：若い世代の地元出身のイラストレーターに依頼し、若い世代の活躍を願い、既存のアート事業を活用してデザインを決定した。

Q：従来のレジ袋とふくレジの販売の量の推移はどうですか。

A：従来のレジ袋とふくレジが並んで売られている。年間、レジ袋は8200万枚、ふくレジは100数10万枚、およそ8%の変化だが、成果は出ている。

#### (3) 感想

##### ●今野委員長

マイバッグを忘れた際に普通のレジ袋を買うのがもったいないと思ってしまいが、ふくレジはごみ出しに使えるのでとても便利である。しかも福岡市内で活躍しているデザイナーがデザインしており、おしゃれなデザインで金額もごみ袋と同じ値段なので、とても買いやすいと思った。福岡市としても置き場所のレイアウトやポップ等お店に置いてもらうために

様々工夫をこらしている。令和6年11月からスタートした取り組みなので、ちょうど1年経ったが今後更に定着していく事業であると感じた。千歳市においても転勤等単身で来られている方も多し、うっかりマイバッグを忘れてしまい、レジ袋を購入する方もいらっしゃると思うので、ふくレジのような取り組みについては、取入れていくことを提案して参りたい。

●相沢副委員長

素晴らしい取り組みと感じた。「ごみ袋のばら売り」さえ、店で導入してくれば、買い物客は勝手にそのごみ袋に商品を詰めて持ち帰るだろうと、私自身が過去に考えており、数年前に一般質問をしたことがあった。しかしその後、千歳市内ではごみ袋のばら売りをする店が増えていったにも関わらず、買い物客がそれをレジ袋とする姿はほとんど見られなかった。福岡市はこの取り組みにあたり、先事例の他都市の住民の声である「ごみ袋を持って歩くのに抵抗がある」ことに注目。

市民の使いやすさ、という課題に対し、既存事業である「Fukuoka Art Next」を活用し、素晴らしいデザインの袋を考案した。ごみ袋ではなく、レジ袋として販売し、それをごみ袋として活用できますよ、という柔軟な発想は、賞賛に値する。千歳市でも、ぜひ導入したいと思った。

●山崎委員

買い物をし、その品物を入れるレジ袋を、そのままゴミ袋に使えると言うのは良いアイデアと感じた。ただそれが市民がどれだけ必要とするか、経費がいくら掛かるかの費用対効果を考えると千歳市で採用することについてはしっかりと考える必要が有ると感じた。

●岩満委員

今回の視察で私は一番興味をもったレジ袋を通常のごみ袋として使用できる「ふくレジ」の事業であり、全国の都市でも取り入れており例として、千葉市、熊本市、札幌市や千歳の近隣でも恵庭市がこの事業を取り入れており、千歳市もこのレジ袋のごみ袋としての活用事業をぜひ検討すべきと思料しました。課題は安価な価格が設定でき市民の皆さんが利用できる状況ができるかが課題と思料しますが 現在の40リットルのごみ袋でも1枚80円でありレジごみ袋の活用の可能性はかなりあると思料しますので是非行政の検討を期待したいと思います。

●仲山委員

脱炭素の施策は、エネルギー源など大きなことに着目されるが、今回の視察を通し、小さな積み重ねも大変重要であることに改めて気付かされました。

社会が高齢者世帯や単身世帯が増加し、脱炭素へ市民が自分事として取組める事業であり、国が推進する脱炭素社会へ身近な取組としてできる一助になると思います。また、『ふくレジ』の単価が指定ゴミ袋と同一単価であり、高齢者世帯や単身世帯には、受け入れやすい事業なのかと感じました。当市でこの事業の推進にあたっては、ごみの排出単価が異なっており（燃やせるごみ高い）難しい面もあると思料しますが、事業の考え方として大切なことではないのかと感じました。今後の活動に繋げて行きたいと考えます。

●今井委員

フクレジは、一人暮らしや少量の買い物をする人にとっては便利だなと思いました。ただの袋だと普通のごみ袋を持ち歩いているという声があり福岡出身のアーティストがデザインした袋が街中で持ち歩いても違和感がなくておしゃれなデザインになって好評だと聞いてデザインの大切さを感じました。

●落野委員

ゴミ袋を持って歩くという抵抗感を和らげるため、アーティストによるデザインを採用した。先行する千葉、熊本、札幌を抜いて販売数量はトップだという。環境面からも前進させたい。

(別紙4)

## 4. こども未来基金について

### (1) 事業背景等の説明

福岡市こども未来局こども政策部総務課

- ・福岡市では、平成17年4月に「福岡市こども未来基金」を創設し、次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ、育つことのできるまちづくりを進めていくこととした。基金設立の当初積み立ては、10億円。
- ・寄付額の累計は544,065,473円(令和7年3月末日現在)  
※うち令和6年度寄付額 209,048,721円
- ・令和6年度の福岡市こども未来基金活用事業は、おむつと安心定期便、子どもプラザ、地域子ども育成事業、子ども情報提供等
- ・財源は、ふるさと納税等の寄付である。
- ・以前は、保育所の整備事業費保育士の人材確保のために家賃助成、保育士団の奨学金の返済の助成にも充てていたが、近年はおむつと安心定期便のみに使用している。
- ・子育て家庭の孤立を防ぎ、安心して子育てができる環境づくりを進めてきたが、令和5年度からスタートしている、福岡市「おむつと安心定期便」に11億円以上の予算で事業を行い、誕生から2歳まで毎月2,000円程度のお祝いボックスを宅配し見守りを行っている。その中で子育ての困りごとなどのアンケートを実施し、必要に応じ支援につなげている。

### (2) 主な質疑等

Q：福岡市のふるさと納税の令和6年度の総額はおいくらですか。

A：約38億です。

Q：利子でまかなえれば、持続性があると思うが、利子はどのくらいですか。

A：年間1億円くらいです。

Q：こども未来基金の寄付金のうち、ふるさと納税の額はおいくらですか。

A：約3億です。

Q：福岡市の39のふるさと納税の選択肢のうち、こども未来基金の割合はどのくらいですか。

A：約10パーセントです。

Q：この基金には、奨学金も含まれているのですか。

A：奨学金には充てていません。

Q：基金の具体的な使用例を教えてください。

A：令和6年度は、約1億円を「おむつと安心定期便」に活用しました。

Q：こども未来基金の用途は、変化するのですか。

A：毎年、基金の用途については財政課と調整し、議会に諮り決定します。

### (3) 感想

#### ●今野委員長

こども未来基金を活用したおむつと安心定期便という事業についてはとても素晴らしい取り組みであると感じた。これは0～2歳の子育て家庭を定期的に見守りながらおむつ等を届ける事業であり、出生した月はおむつを中心としたお祝いボックスを宅配するが、生後1～3ヶ月は子育てに関する困りごとなどのアンケートに回答すると電子スタンプを入手し、電子スタンプとおむつ等の複数のメニューから商品を選択することができ宅配される。生後4ヶ月以降に関しては子育てサービス等利用時に電子スタンプを入手し、商品を交換すること

ができるということで、行政とのつながりが必要であり、孤立しないようにしている。登録率は95%、月々の利用率が85%ということで大変関心の高い事業であると感じた。千歳市では0~2歳の子育て家庭にごみ袋をお渡ししているが、自分で選べる商品の方が喜ばれると思うし、行政とのつながりをつくるということも大事な取り組みであると思うので、千歳市の実情にあったカタチを考え提案して参りたいと感じた。

●相沢副委員長

子育ての基本的な助成は一般財源から、新たな取り組みにはこども未来基金で賄うとの説明があった。基金の用途は、毎年財政課と議会に諮り決定する。

現在の基金残高は109億円もあり、様々な用途を想定しているようだが、わがまちでもこのような基金を積み立て、子供たちのための運動場や遊び場の整備に充ててもよいかもしいれないと感じた。

●山崎委員

特に「おむつと安心定期便」についてですが、0歳~2歳まで毎月2000円程度の支援を行い、子育て世帯の孤立化を防ぎ、安心して子育てができる環境づくりをすすめる事業を行っており、この事業が一般財源ではなく寄付金（ふるさと納税等）によって運用されていることに感心した。今後千歳市においても寄付金運用について、こういった取り組みも検討する必要を感じた。

●岩満委員

福岡市の出産・子育て支援のこの施策を拝聴して「おむつと安心定期便」により出産直後の方へおむつと必要な品を送る素晴らしい事業を展開しており また子育て安心ガイドの配布により様々な相談内容がわかる冊子やアプリで子育てに関する相談を経緯にできるシステムを構築している状況を確認し、千歳市もおむつの処理のごみ袋の提供は行っていますが おむつの提供は現在ではなく千歳市も子育て支援の観点から出産後の支援におむつの配布の検討をすべきと強く感じました。子育てするなら千歳市とうたっている当市でもあり今後の議会での議論も必要であると感じた視察でした。

●仲山委員

『子育てするなら千歳市』のキャッチを掲げるまちの事業施策の参考になるよう福岡市へ視察した。その中で令和5年度からスタートしている、福岡市「おむつと安心定期便」に興味を持ちました。0歳~2歳まで毎月子育て世帯の孤立化を防ぎ、安心して子育てができる環境づくりをすすめる事業に感心するとともに、子育て状況を把握するためのアンケートと回答や子どもプラザ、子育て交流サロンなどの利用によるスタンプ入手によりある程度の実態調査になり、支援を要すケースも迅速化され子育て世帯へ安心を届ける事業になっていると感じました。また、「おむつと安心定期便」のお祝いボックスは、おむつだけでなく子育て用品を選択できるようになっているようです。

千歳市も乳幼児紙おむつ用ゴミ袋支給等を行っていますが、そこに限定するのではない事業を検討していく必要があるのではないかと感じました。もちろん財政力があっての事業ですので課題もあると思いますが、子育て世帯が求める事業を一つでも多く出来るよう活動して行きます。

●今井委員

子供未来基金については、企業や団体などイベントの参加費や寄付、ふるさと納税などで支援が集まっているのがよいと思いました。

その中で、おむつと安心定期便は千歳市でも活用出来たらいいと思いました。

●落野委員

私事だが、私が議員になった16年前、同じ未来基金を行政視察している。感慨深いものがある。令和元年度から、大幅に改善したようである。

福岡市子供未来局の職員数は550人かなと言われた。千歳市の子供福祉部は74人であ

る。乱暴な比較をすると、人口比167万人と10万人、職員数では、千歳も負けていない。千歳市の子供福祉にも大いに期待したい。